絹糸の出荷検査風景　（昭和初期）

綿花の荷役
神戸港の綿花輸入は、明治20年代から増加が始まり、大正後期の国内紡績工業の台頭とともに神戸を代表する輸入品となった。

昭和11年3月13日付大阪毎日新聞

港戸神にがすさ

昭和十年の貿易
十七億三千万圓
大正十四年来の躍進ぶり
世界第三位の貫祿

税関貨物取扱人従業者証票
当時、税関貨物取扱人従業者数は全国で約1,800人であった。

輸出樟脳のラベル
神戸に樟脳工業が興ったのは明治初期である。以来、大正、昭和と神戸の特産輸出品として、アメリカ、インド向けを中心に全国輸出シェアの大半を占めた。

輸出用粗紡糸、絹糸の商標